神奈川県

第46回「全日本中学生水の作文コンクール」

神奈川県優秀作文集

令和６年７月

「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、日常生活での体験あるいはご両親や先生方から学び聞いた話をもとに、水について考えていただこうという趣旨で、昭和 54 年から「水の週間」の行事の一環として実施しています。

神奈川県では、平成 19 年度から新たに水源環境保全・再生施策の取組みがスタートしたことを機として、平成20年度から神奈川県独自の賞として水源環境賞を創設しました。

神奈川県内では 125 編の応募があり、神奈川県表彰として最優秀賞１編、優秀賞４編、入選３編及び水源環境賞３編を選定しました。

この 11 編について、このたび優秀作文集としてとりまとめました。いずれも、生活や学校での体験を通して、水について理解を深め、水を大切にしていこうとする中学生の皆さんの気持ちがよく表現されています。ぜひご一読ください。

第46回「全日本中学生水の作文コンクール」は、次のとおり行われました。

１　応募要領　①テ ー マ…「水について考える」（題名は自由）
②対　　象…令和６年度に神奈川県内在学の中学生
③原稿枚数…400 字詰原稿用紙４枚以内で日本語により表記された個人作品
④あ て 先…神奈川県内の場合、神奈川県政策局政策部土地水資源対策課水政室
⑤募集期間…令和６年３月１日～令和６年５月９日（必着）
⑥版 権 等…○応募作品の版権は水循環政策本部、国土交通省及び神奈川県に帰属する。
○応募作品は自作の未発表のものに限る。
○応募作品の返却は行わない。

２　神奈川県内
応募状況

応　募 学校数	応　募 総　数	学年別（編）		
		１年	２年	３年
９校	125 編	74	45	6

３　審　　査

(1) 都道府県審査　応募作品について神奈川県が審査を行い、神奈川県表彰として最優秀賞１編、優秀賞４編、入選３編及び水源環境賞３編を選定。最優秀賞及び優秀賞の計５編については、中央審査対象作文として国土交通省に推薦。

(2) 中 央 審 査　都道府県の地方審査を経た作文を対象に、中央審査会（国土交通省主催）で最優秀賞１編・優秀賞 10 編・入選 29 編を選定した。

「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年５月31日　閣議了解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年８月１日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他の関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

水循環基本法（平成26年法律第16号）

第十条　国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。
２　水の日は、八月一日とする。
３　国及び地方公共団体は、水の日の趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

＊表紙写真

「鮎沢川が織り成す渓谷美」　海老名市 池田 健一さん撮影

（令和５年度かながわ県のたより 11 月号の「私の好きな神奈川(投稿写真)」掲載作品）

目次

最優秀賞

水と森の関係……横浜市立篠原中学校二年　水野カンナ

優秀賞

陰で支えてくれる水……聖園女学院中学校一年　石尾紗良
良質な水のために……川崎市立西生田中学校三年　加藤孝祐
「災害時の断水に備える」……聖光学院中学校一年　田中紳慈
あたりまえの水……関東学院中学校三年　翠川楓子

入選

水に感謝……聖園女学院中学校一年　大庭梨瑚
「水道水はおいしい」……横浜市立生麦中学校二年　藤井彩音
ダムの水から知ったこと……聖園女学院中学校一年　安川由唯

水源環境賞

同じようにもどってくる……聖園女学院中学校一年　金井綾音
伝えるための第一歩……聖園女学院中学校一年　駒形萌衣
水の価値……横浜市立篠原中学校二年　酒向心春

最優秀賞

水と森の関係

横浜市立篠原中学校
二年　水野　カンナ

水は森と共に生きている。雨水が森林を通って土壌に溶け込み、土が汚れを取り除いて、水をきれいにする。また、森が水を蓄えることで、川が溢れにくくなり、洪水や土砂崩れを防ぐ役割もある。このように、森は水と深く関わりがある。

小学二年生の頃、家族で山へ遊びに行った。山に入って数分経っただろうか。近くに湧水を見つけた。湧水は飲めると噂を聞いた私は、興味本位で湧水を飲んだ。溢れ出ている場所から両手を広げると、透き通った水が音を立てて私の手へと落下した。湧水は家の水よりひんやりしていて、とても美味しかった。今まで家などでしか水を飲む場所がなかったことから、私は秘密の場所のようで、その後も何度も飲んだ。その時は嬉しさのあまり、どうして汚れがなかったのか、疑問には思わなかったが、ふと思い出すと、疑問が溢れかえった。調べてみると、森に降った雨が腐葉土に染み込んでいき、土の隙間を通ることで汚れが取り除かれ、長い年月をかけて、汚れのないきれいな水が出来上がるそうだ。

では、どうして森は水を蓄えることが出来るのか。実は、草木の根が土を持ち上げたり、土の中にいたミミズなどの小さな生物が動き回るため、森の土はスポンジのようにたくさん穴が空いていて、たくさんの水を蓄えることが出来る。つまり、森の土に水をきれいにすることだけではなく、水を蓄えるという重要な役割もあるのだった。

しかし今、大切な水と深く関わりのある森が世界で一分間に東京ドーム二つ分消えているそうだ。伐採されその後、木材として家具や燃料にも使われている。

私達は大切な水よりも、世界の進歩を優先してきてしまったのかもしれない。しかし、このような状況が続いていくと、環境が乱れ、いつかは私達の大切なものが消えてしまう可能性がある。森林伐採によって採れた木材は様々なものに使われている。それは私達にとって必要

不可欠なものもある。だから森林伐採を止めるということは簡単にはできない。しかし、伐採した場所から木を植えて育てるということはできる。そうすることで、大切な水は蓄えられ、洪水や土砂崩れの心配も防ぐことができる。一人一人の行動がひいては環境美化につながる。環境や水を守るためにも私は森を大切にしたい。

優秀賞

陰で支えてくれる水

聖園女学院中学校
一年　石尾　紗良

皆さんは、「水」と言われて何を思い浮かべるだろうか。私がまっ先に浮かんだのは、生活用水だ。でも、実は水は生活に欠かせないだけでなく、見えないところでも色々な形で関係しているのだ。私たちの快適な暮らしを陰で支えている水について、もっと多くの人に知ってもらい、考えてもらいたいと思っている。

まず、私が一日の中でいつ、どのようにして水を使っているのか考えてみた。朝、起きたらまず顔を洗う。麦茶を飲みながらご飯を食べて、歯を磨いて口をすすぐ。学校のお昼ご飯と水筒のお茶を飲み、トイレに行ったら水を流す。家に帰ったら、手洗いとうがいをし、シャワーで体を洗いお風呂に入る。これがもし、水が無くなったら、何もできなくなってしまう。

顔も洗えず水も飲めず、トイレは流せず、お風呂にも入れない。水分が補給できなければ尿も出なくなり、やがて死に至る。何をするにも水が必要だけれども、それは目に見えるものばかりではない。実は、物を作るにも水は欠かせないのだ。

例えば、私たちが着ているTシャツひとつだけでも、水は大量に使われているのだ。例を挙げると、Tシャツを一枚作るのに約二百五十グラムの綿花が必要とすると、その綿花を作るには、約二千九百リットルの水が必要だと言われている。これは一般的なお風呂十五日分になる。では、私たちはどれだけの服を持っているだろうか。そしてそれは、結果としてどれだけの水を使っていることになるのだろうか。想像するだけでも、とてつもない水の量だと分かるだろう。

しかも、これは服だけではない。私は牛肉が大好きだが、牛を育てるのに、トウモロコシなどの穀物が必要で、その穀物を作るのにも水が必要だ。つまり、牛肉一キログラムを作るのに、水が、約二万リットル必要になるのだ。

このように、私たちの生活と切っても切れない水だが、

世界中どこにいっても同じように水が、使えるわけではない。世界の人口の約四十パーセントになる三十六億人が水不足に悩まされていて、水を巡って紛争が起きた地域もある。しかも、将来的には人口の増加や、気候変動などの影響で、さらに、水不足が深刻化する可能性も、指摘されているという。

では、私たちに何ができるのだろうか。毎日のシャワーや歯磨きの際に使う水を最小限にするなど、まずはできることから始めるのが良いだろう。そして、目に見える水の使用量を減らすことに加えて、服や牛肉などを作るのに大量の水が使われていることを忘れずに、常に水と社会の関わりを意識して生活することが大切なのではないだろうか。今、着ている服を大切にしたり、むやみやたらに使い捨てずリサイクルやリユースに取り組むことも、「水」の使用量を減らすことにつながるのだ。

これからも視野を広く持ち、自分にできることを行い、大切な水を今後も長く使い続けていけるように考えていきたい。

優秀賞

良質な水のために

川崎市立西生田中学校
三年　加藤　孝祐

「トイレから蛇口へ」

その記事のタイトルを見たときは驚いた。米国のカリフォルニア州では長期にわたる干ばつで水が不足している。そこで既に使われたトイレの水などの廃水を、様々な段階を経て消毒し、飲料水として再生利用することを発表したそうだ。調べてみると、カリフォルニア州だけでなく水資源が少ない多くの地域や国が、廃水を飲料水に再生する取り組みを始めているらしい。

この現実を知って僕は衝撃を受けた。浄化したとはいえ、トイレに使った水を飲むのは抵抗がある。ロサンゼルスに住む僕の尊敬する大谷選手も、その再生水を飲むのだろうか。いつか日本もそうなっていくのだろうか。水不足はそれほど深刻なのか。僕は自分が住む神奈川県の水事情について調べてみた。

神奈川県には相模川水系と酒匂川水系に設けられた四つのダムがあり、県民が必要とする水の「量」の心配はほぼ無いらしい。しかし、水の「質」という点で大きく二つの問題がある。ダム湖周辺地域では生活排水対策が不十分で、ダム湖の窒素やリンの濃度が上がり水質が悪化していること、また雨水を蓄える水源地域の森林整備が遅れ、雨水をゆっくり流す森林の機能が低下していることだ。

そこで神奈川県は、県民への良質な水の安定的確保のために「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」をまとめ、平成十九年から二十年間、四期にわたりこれらの問題に取り組んでいる。第一期から第三期では、水源地域周辺の森林の整備が進み、下草の成長が見られるなど森林の機能が向上してきた。また、ダム湖上流地域での生活排水の処理率も向上し、水質が徐々に回復している。しかし、ダム湖のリン濃度は依然として高く、また台風などの自然災害を見据えた森林の土壌保全も必要である。令和四年から始まった第四期ではそのような課題に取り組み、「良質な水の確保」に力を注いでいるらしい。

神奈川県が県民のために必要な水の「量」を確保するだけでなく、その「質」を考え、より良質な水を県民に供給する努力をしていることを初めて知り、きれいな水を守るために自分にもできることはないか、と僕は考えた。水道水は主に河川の水が使われているので、良質な水を確保するには川の水質を保つことが大切だ。そのためには生活排水を見直すことが鍵となる。生活排水は恒常的に排出されるため、河川の水質への影響が大きくなるからだ。特に台所から出る排水は河川を汚す原因となり、コップ一杯の牛乳を流しただけで、魚が棲める水に薄めるのに浴槽十四杯分の水が必要になるという。しかし台所からの汚染は一人一人の工夫で減らすことができる。例えば、食器に残った油は紙で拭いてから洗うようにしたり、調理くずはネットなどを使って極力流さない。また、米のとぎ汁は植木の水やりに使う。国や県だけに対策を委ねるのではなく、個人が水の問題を自分ごととして考え、小さな手間を惜しまないことが河川の水質改善につながる。僕は今まで何も考えずに台所に油を流していたが、これからは水が汚れないような行動を心がけたい。そして、神奈川県の水源環境保全活動や、自分達でできる様々な対策を、僕も周りの人達に伝えて協力者を増やしていきたい。それが神奈川県だけでなく、日本、世界の水質改善につながるはずだから。

今は神奈川県の水量は十分かもしれないが、地球温暖化などの環境の変化で水量が不足する日が来るかもしれない。そんな時のためにも僕は水を大切に使いたい。トイレの水の再生水よりも、おいしい神奈川県の水をこれからもずっと飲んでいたいから。

優秀賞

「災害時の断水に備える」

聖光学院中学校
一年　田中　紳慈

今年の元日午後四時過ぎ、父が「石川県で大地震だ」と慌ててテレビをつけた。亡くなった曽祖父母は石川県小松市の出身で、小松市には今も多くの親族が暮らす。

テレビから聞こえる、津波からの避難を繰り返し呼びかけるアナウンサーの声は、この地震がもたらす大きな被害を予想させた。幸い、私の親族に大きな被害はなかった。

しかし、この地震は二百人以上の命を奪っただけでなく、能登半島では発生から四カ月たった今も断水が続く。お年寄りがポリタンクを持って給水車へ駆けつける映像は、「蛇口をひねれば、安全な水が飲める」ことが、いかに「当たり前」でないかを痛感させた。

「命の水が届かない」というのは、どのような状況なのか、横浜市という都会に生活し、生まれたときから何一つ不自由なく水道を使ってきた自分には、今は想像もつかない。

一方で、首都直下地震が今後三十年で発生する確率は七十パーセントと想定される。地震に伴う断水は他人ごとではない。それに備える方法はないのか、対策を調べてみた。そのポイントは「自助」「共助」「公助」だ。

横浜市は、災害時の断水に備え様々な対策を講じている。学校や公園に備えられている「災害用地下給水タンク」は発災直後の応急給水を目的としタンク内に新鮮な飲料水を確保する「公助」の施設だ。ただ実際に活用するには市民が仮設の蛇口を設置し手動ポンプで水をくみ上げ給水する「共助」も必要だ。

また、「共助」の取り組みとして、所有者の理解のもと災害時の生活用水とするための「災害協力用井戸」が指定されている。その井戸水は飲用には使えないが、発災時はトイレなどの生活用水として活用できる。偶然にも、自宅から徒歩数分の民家が「災害協力用井戸」に指定されていることを初めて知った。不安が少し安心へと変わっていく。

では、「自助」はどうか。自宅で行っている断水対策を調べてみた。我が家には、組み立て式の簡易トイレが備えてある。父が阪神淡路大震災の直後、神戸市の曽祖母宅に駆けつけた際、その必要性に気づいたのがきっかけだ。当時はトイレが排水できず、悪臭はもちろん感染症の流行にもつながったという。

トイレの問題は話題にすることを避けがちだが、とても重要だ。災害関連死を防ぐには、三つの要素「ＴＫＢ（トイレ・キッチン・ベッド）」が大切だという。より多くの人が簡易トイレの重要性を知り今から備えてほしい。

また、地震に備え、我が家は一週間分のミネラルウォーターや調理のいらないレトルト食品はもちろん、紙皿・紙コップ・ラップも多めに備蓄している。断水したときは皿を洗って使うことができない。水を節約するために皿にラップを巻いて、食べ終わったらラップを捨てる。皿を洗う必要がないので、災害時は貴重な水の節約になるからだ。

また、水を使わないシャンプーも常備されており、入浴できない時も頭髪を清潔に保つことができる。日常の掃除にも使える赤ちゃん用のおしりふき、歯磨きのいらない洗口液などは断水対策としても有効だ。

確かに、自然災害の前に人間は無力だ。しかし、家庭でも普段からできる「減災」の取り組みは色々とあり、断水への備えは特に重要だ。とりわけ、横浜のような人口密度の高い大都市では、実際に災害が発生した際、給水車の派遣などの「公助」が行き届くまでに、時間を要する事態が想定される。都市部では、それぞれの市民が事前の「自助」、発災後の「共助」を実践することが極めて重要なのだ。

能登半島地震は、発災時においては、単に「公助」を待つのではなく、市民が主体的に「自助」や「共助」の取り組みを実践することで安全な水を確保し、自らの健康と生命を守ることが、いかに重要であるかを教えてくれていると思う。

優秀賞

あたりまえの水

関東学院中学校
三年　翠川　楓子

今回、「水の作文」を書くにあたり、思い出す一枚の写真がある。その写真には、蛇口から出る透明な水に喜ぶアフガニスタンの子ども達の輝かしい笑顔が写っていた。

アフガニスタンというと、四十年続いている戦争や紛争を思い浮かべる人が多いと思うが、二〇〇〇年から二〇〇六年に起きた大干ばつも同じくらいに深刻な問題である。これにより、水不足に苦しみ命を落とす人々が多くいた。

人は水がなければ生きていけない。水がなければ農作物も育たない、家畜も死に絶えてしまう。小さな子ども達は、清潔な水が飲めず汚い水を飲み、感染症などにかかり命を落としてしまう。日本に住む私達は、その「命の水」を、蛇口をひねれば簡単に清潔な水としてふんだんに利用できるというのに。

「水がなくて人が亡くなる」などと想像するのも難しいところである。しかし、この地球上で水不足によって苦しめられている人々が多くいるということを他人事として捉えてはいけない。なぜなら、地球温暖化の原因である二酸化炭素を排出し、地球上の気温を上げている国は圧倒的に先進国だからである。その経済活動のしわ寄せがほとんど二酸化炭素を排出しない途上国の人々に及んでしまっている。アフガニスタンも同様である。本来アフガニスタンは、干ばつ前は自給率九〇％だ。そして国土は日本と似ていて四分の三は山である。標高の高い山も多くあり、冬に降り積もった雪が夏に少しずつ解けて農地を潤す。国民の八割が農業で食べているそうだ。

そんな干ばつ前の状態に戻そうと、長年にわたりアフガニスタンで人々の病気の治療をして、多くの命を救ってきた日本人医師、中村哲氏により、全長二十五㎞もの用水路が造られた。その先にあるクナール川は、高い山脈に囲まれ、雪解け水を常に蓄えてくれている。そこから乾いた大地まで水を引いてきたのだ。それにより三〇

〇〇ヘクタールもの大地を潤した。その大きさは東京ドームおよそ六百四十個分だ。その水は乾いた大地に多くの実りをもたらし、清潔な水があることで子ども達が病気になることや命を落とすことが減った。私はその用水路を写真でしか見たことはないが、一面植物の緑色で覆われた敷地に一本の用水路。太陽の光を受け、煌めく水はとても美しかった。その水は現地の人々から「真珠の水」と呼ばれているそうだ。初めて綺麗な水を見たアフガニスタンの子ども達はその水の煌めきを瞳に映しながら何を思ったのだろう。幸せな未来を描き、永遠に続くと思ったであろうか、それともまた干ばつに……。などと遠く離れたアフガニスタンの子ども達に思いを馳せると同時に水資源について改めて意識せざるを得ない。

この地球上の水は無限にある訳ではない。ふと日本、私達の生活が気がかりになる。私達の水の扱い方はどうであろう。水資源を無駄にしていないだろうか。家庭で自分にできることを考えてみた。お風呂でシャワーを出しっぱなしにしない。歯を磨く時も同じだ。野菜や果物を洗う時は水を張ってため洗いにする。これらはとてもとても小さいことである。しかし、日本、いや世界中の人々が、小さなことでも意識を持って生活をしたならば、地球上の大切な水を守ることに繋がるだろう。今頃になってこんなあたりまえに気がつくとは情けない限りである。けれども、井戸を掘り蛇口から出た透明に輝く水を初めて飲んだあのアフガニスタンの子ども達は、この「水」があたりまえではないということに、とっくに気づいているはずだ。

限りある水資源を未来に繋げていくためにあたりまえの水の意識を変えること、そして、一人ひとりが水の使い方を見直していくことが私達の課題だ。水のありがたみを理解し、水は無限ではないと常に意識していきたい。

入選

水に感謝

聖園女学院中学校
一年　大庭　梨瑚

「うちの田んぼに野生のカモが来ているよ、見に行こう。」と母は私と弟を田んぼに連れて行ってくれた。田植えが終わって少し成長した稲の間を母ガモと子ガモたちが元気いっぱい泳いでいた。田んぼにはオタマジャクシやアカハライモリ、ホウネンエビなどたくさんの生き物がいる。カモにとって、稲で隠れることができ、食料もある田んぼは暮らしやすい場所なのかもしれない。私は春になると、田んぼからオタマジャクシをすくってきてカエルになるまで観察することが好きだ。足と手がはえて、きれいな黄緑色のアマガエルになるととてもかわいい。カエルになったら、すくってきた田んぼに戻すことにしている。アマガエルは、夏になると田んぼから畑に移動してくるので、家の玄関やベランダにいるアマガエルを見ると、遊びに来てくれたのかと嬉しい気持ちになる。

私の家では、家族や親せきが食べる分のお米を作っている。祖父と仕事が休みの日に父が主に管理をしていて、田植えや稲刈りはみんなで行う年中行事のようなものだ。稲を育てるには、水がとても重要だ。稲は田んぼに入れる水の量を調節しながら秋まで育てられる。田んぼに入れる水は用水路から来る。用水路は水の道路のようだ。木の枝のように次々と分かれながら、たくさんの田んぼにつながっている。私の住む地域には田んぼがたくさんある。この田んぼに注ぐ水は深良用水だ。深良用水は、干ばつに苦しむ農民のために、芦ノ湖の水を深良村に流すため、一六六六年から約四年のさい月をかけて深良側と芦ノ湖側からほぼ同時に掘り進められたと考えられているトンネルである。深良地区郷土資料館には、工事で使われたノミやあんどんが展示保管されている。石を割ったり、運び出す作業を人力で行っていたのだからとても苦労したと思う。数百年前の人たちの努力や苦労のおかげで、いまの便利な生活があることは忘れてはいけないし、日々感謝しなければならないと思う。そして、こ

のトンネルは現在も田植えの前や稲の収穫期に点検され整備管理し大切にされている。

深良用水について学ぶまでは、私の住む地域を流れる水が芦ノ湖からきていることを知らなかった。神奈川県にある芦ノ湖の水が静岡県に流れてきて、農業や産業、生活用水など人々の暮らしを豊かにしている。隣同士のつながりはとても大切だと思った。

水は有限である。便利な生活をすることで水が無駄に使われたり、水質が悪化したりしている。最近では、節水トイレやすすぎ一回の洗剤など日常生活において水を節約する考え方が広がってきている。さらに、水質汚染については、日本の場合その主な原因は、生活排水が占めていると言われている。調理の際の油は拭いてから洗ったり、適量のシャンプーを使ったり、毎日の積み重ねが生活排水の水質改善に重要だと思う。

雨や雪となり地上に降り注いだ水は、やがて川となり海に注ぐ。だれのものでもない水を守るために、一人一人が水に感謝し、大切にしていかなければならないと思う。

入選

「水道水はおいしい」

横浜市立生麦中学校
二年　藤井　彩音

水道水は、とてもおいしいです。なんとなく水道の水はおいしくないと思い込んでいる方が多いのではないでしょうか。

私は市販のミネラルウォーターと水道水を飲み比べてみました。家族に協力してもらい同じコップで区別がつかないようにし、室温の水と冷蔵庫で冷やした水を味わってみました。どれも問題なくおいしかったのですが、おいしいと感じた順に一位から四位まで順位を付けました。四位は室温のミネラルウォーターでした。冷えていない水は少し味気ない感じがしました。三位は室温の水道水。二位は冷えたミネラルウォーター、さわやかな感じです。そして最も飲みやすくておいしく感じたのは冷えた水道水だったのです。

私は小学生の時に西谷浄水場の横浜水道記念館を見学して、横浜が近代水道発祥の地であり、きれいな飲料水があることは港の発展や都市の発展に大きく寄与したことを知りました。それから飲み水のことを調べるようになり、私達は水道水が飲める国に育って幸せであり、ありがたみを忘れていることに気が付きました。

海外では水道水をそのまま飲むことができる国は数えるほどしかありません。アジアでは唯一日本だけです。水道水が飲めないのは水源の水量が少ないことや、人間の活動のせいで河川が汚染されているためです。そのような国のひとは、毎日水を汲み運ばないといけなかったり、ボトルの水を購入したりするしかありません。

私は水道水のファンになりました。水分補給は水道水です。氷を入れて水筒で持ち歩いています。お茶やミネラルウォーターより実は安全で長持ちするのです。

日本初の近代水道が横浜で一八八七年に開通してから、日本中に七十三万キロの水道が張り巡らされています。これを維持するには大変な苦労があるそうです。水道設備が老朽化しています。横浜市の水道は九千三百キロありますが一年間にできる工事は百十キロだそうです。こ

れでは工事が完了するころには、また古くなってしまいます。老朽化した水道管は地震に弱く、今年の元旦にあった能登地震では全域が断水し、五月になっても全面復旧には至っていません。

私の住む岸谷というところには「岸谷の湧水」という湧き水が出る場所があります。私の通う中学校の建つ丘のふもとの国道脇に石垣に囲まれた水場があります。横浜には昔から湧き水が多くて、機関車のボイラーに使ったり、横浜港の船舶に供給していたそうです。水に関する漢字で「谷」の「岸」なので、昔から谷川だったのでは、と想像します。岸谷の湧水は年中涸れることなく蛇口を締め忘れた程度の水量で湧きつづけています。看板に説明書きがあり、昭和十二年の国道建設時に発見されたこと、煮沸して飲むことなどが書かれています。この湧き水も万一の災害時には貴重な水源になるかもしれません。この水は中学校が建つ丘に降った雨水が集まって湧き出しているのでしょう。きれいな湧水を保つには学校の周りを汚してはいけないな、と思います。

日本は水資源に恵まれ、充実した水道が整備されていますが、これは自然環境の賜物です。日本の地理的な条件や気候がこのような環境を作っているのです。これはたまたま運が良かっただけと言えます。水源地の森や、河川の自然と環境を大事に維持しないと、いつまでも安全な水を享受することはできないということを肝に銘じなければなりません。

飲料水の持続可能性を考えると、とても困難なことに思えます。しかし一人一人の小さな努力が大きな変化を生み出すことを信じて、水を大事にしていきたいと思います。

入選

ダムの水から知ったこと

聖園女学院中学校
一年　安川　由唯

小学校の社会科見学で宮ヶ瀬ダムを見にいった。ダムからは勢いよく、たくさんの水が出ていた。私の住んでいる所にダムや森林はないから、見ていておもしろかった。ダムから出ている水はあふれることなく、なくなることもなく、出続けていた。ときどき飛んでくる水しぶきがとても冷たかった。ダムは水の流れる量を調整する役割がある。けれどその水はどこから来ているのだろう。

川の水源について調べてみると、川の水は雨や雪として地上にふった水であることが分かった。空からふってきた水が川の水になるには二つの種類がある。

ひとつ目は、ふった雨が流れてきてそのまま川に流れこむということである。空からふってきた雨水は少しずつ、少しずつ時間をかけて川の水となる。つまり大雨がふったら洪水になってしまう恐れがある。

しかし、森林の役割によって洪水が起こりにくくなる。森林には、ダムに匹敵する水が貯えられるといわれていて、「緑のダム」とも呼ばれている。森林に雨がふってくると雨水は葉によって受けとめられて、ゆっくり流れ落ちていく。水が木の下に生えている植物をうるおして地面の土にしみこんでいくため森林が水をためている時間は長い。

ふたつ目は、いったん土の中にしみこんだ水をもう一度地上に出して、そのまま川に流れこむということである。土の中にしみこんだ水は岩や砂の間にたまっていき、最終的に地下水になる。そして、少しずつ地上に出てきて、高いところから低いところへと流れ続けている。

水は森林の力をかりて調整されていることを知った。私は、いつも水をきれいにするなら、ゴミ拾いなどをするということを考えてきたが、それだけでなく、水をきれいにするには森林をしっかりと手入れをして守っていくことも大切だと思った。

一本の木だけでは水はきれいにならないのと同じで一人では実現しなくてもみんなで森林を育てたら、水がき

れいになる。宮ヶ瀬ダムから出ている水もきっと、守られているのだと思う。

水源環境賞

同じようにもどってくる

聖園女学院中学校
一年　金井　綾音

のどがかわいた私のコップに水がはいっていく。それは、いつも祖父がくみに行ってくれるおいしい湧き水だった。祖父はとてもあまくておいしい野菜や果物を育てている。どうしてこんなにおいしい野菜や果物がつくれるのだろうか、と疑問に思った私は祖父においしさの秘訣を聞いてみた。すると、野菜や果物を植えている田んぼに湧き水をつかっていると教えてもらった。その湧き水は、志賀高原に降った雪、雨水が地下に浸透し、時間をかけ山のふもとから湧き水となって出てきているのだそうだ。

湧き水について調べてみると、湧き水は必ず安全に飲めるものではなかった。湧き水地には多くの人が訪れるため、それらの人々によるゴミの不法投棄などにより湧き水周辺の環境が汚染されることもある。それほど人が集まることのない湧き水地であっても、ゴミを捨てるようなことはあってはならないと思う。雪や雨水のように汚い水でも、きれいなおいしい水になるのは、地面に染み込み、いくつもの地層でろ過され、水を通しにくい層を通ってきたからだ。人工的に層をつくったわけではなく、自然の力で地層ができたのだと思うと自然はとてもすごい。そうしてゆっくりとろ過されてきた水が湧き水としてでてきているのだ。あまり深く考えたことはなかったが人はたくさんの自然からヒントをもらいながら生活している。

結局は、海の水が蒸発して水蒸気になり、雲になり、雪や雨になっていく。つまり、海の水をきれいにすることが自分たちの大切な水源を守ることにつながるということだ。

私たちはあたりまえのように水をつかっている。汚い水を流せば汚い水がもどってきて、きれいにつかえばきれいにもどってくると思い、水を大切につかうことを意識していきたいと思う。そうすれば、祖父のようにおいしい水で野菜や果物をつくれるなど、たくさんプラスな

ことがあると思う。ほんの少しでも水を守るための行動ができたなら未来の人のためと思えるのではないだろうか。

水源環境賞

伝えるための第一歩

聖園女学院中学校
一年　駒形　萌衣

「水がおいしい」

私は、家族と静岡県三島市に天気の良い日出かけた。三嶋大社の近くを歩いていると富士山の湧水が出ている所を見つけ、私は気になってその水を飲んでみた。水はとてもおいしく透き通っていて、日本でしか味わえない味だと思った。

家に帰って水について調べてみると、三島溶岩流と呼ばれる水で、その水を良くとおす地層がつくられたそうだ。その地層のおかげで私たちにおいしい水が届くことを調べてわかった。私が、飲んだ場所以外にもたくさん富士山の湧水が出ている所があり、三島駅周辺の三島湧水群や、柿田川などから湧き出ている。この時私は、一つ疑問に思ったことがある。それは、富士山の水はなぜおいしいのかということだ。別に、雨水などをろ過すればいいじゃないかと思った。しかし、富士山の水は、一味違う。何が違うのかと言うと、富士山は標高の高い場所で人為的な汚染がなく、浄水する必要がほとんどない。そして高い所から長い時間をかけてろ過されながら、湧出してくることで火山岩からミネラル成分がほどよく溶け出し、おいしい水ができるので、富士山の水はおいしいと言われている。

水がおいしいと食べ物もおいしくなる。三島のうなぎは、浜名湖などの産地から生きたまま運ばれて、一週間ほどえさを与えず富士山の湧水にさらさせこの一週間の間に、お腹に残ったえさなどを吐き出させて、余分な脂肪を落とし臭みがなくなるようにしているそうだ。私は、富士山の湧水で育てた果物もおいしそうだと思った。

次に私が調べたのは、この湧水を大切にしている人についてだ。調べてみて、湧水は市で大切にしていることがわかった。今、実際に活動しているのは市内の中心部、三河川を清掃する活動だ。作業内容は、雑草、空き缶、茶わんの欠片、汚泥、その他のごみの除去をする活動だ。私はみんなでがんばって富士山の湧水をきれいに保っていることがわかった。きれいに保つことで、まだ湧水をあまり知らない人や、外国人などにも湧水の良さについて知ってくれたり、味が気になって三島に訪れてくれたりしてくれると、私は思った。

その日から私は、水についてもっと考えるようになった。身近に感じていると思った水でも、水の世界は海のようにどこまでも深く続いていて、わからないことばかりだ。

これから自分には、なにができるかを私なりに二つ考えてみた。一つ目は、海や川などをきれいに保つ。保つことで、生き物がみんな幸せになれるからだ。二つ目は、周りに水の大切さを伝えていくことだ。話したり絵を描いたり色々な伝え方がある。この二つを今後大切にしてがんばっていきたい。そして、世界中が水にこまらないようにし、世界が平和と幸せでいっぱいになるように少しずつでもいいから水の大切さを伝えていきたいと、私は思う。この作文も、水の大切さを世界に伝えていく第一歩だと思った。

水源環境賞

水の価値

横浜市立篠原中学校
二年　酒向　心春

水がなくなったら私達の生活はどうなるのでしょうか。生活ができなくなる、困ると考えるのが一般的なのかもしれません。でも、水がなくなると地球が危険にさらされる可能性が高くなるという考えもでてくるのではないかと思いました。私達はどう生活したら良いのでしょうか。

私は小学四年生のときに、遠足で宮ヶ瀬ダムに行きました。ダムの水はとてもきれいで、この水はどこからきているのかと疑問に思いました。調べてみると、この水は森林からきていると分かりました。森林の土は落ち葉や枝、微生物などにより隙間が多く、スポンジのようになっています。雨がふると土の下、つまり地下に吸収されます。地下に吸収された水は時間をかけてゆっくりと川に流れ込みます。雨がふらない時期でも川が流れているのはこのようなことが起こっているからと分かりました。このとき私は水を大切にしていかなければいけないということを改めて実感しました。

現在森林伐採などがおき、水が不足する可能性が高くなっています。そうなると、生態系が崩れたり、生活に支障がでたりします。また、世界できれいな水を飲めない人達は二十二億人、つまり十人に三人といわれています。

私達にできることとして水を無駄に使わないということがあると思います。手を洗うとき、歯を磨くとき、気づかないうちに水を出しっぱなしにして親に怒られていませんか。３０秒水を出しっぱなしにすると６リットルも無駄にしてしまうのです。だから、使わないときは水を出さないよう心がけることが大切です。私は今、お風呂の残り湯を洗濯の水に再利用したり、食器を洗う前に、水につけておき余計な水を減らすようにしています。簡単なことでも、十分水を節約することができるのです。水の使い方を変えることによって、環境がよりよくなりますし、世界で汚い水を飲み、命を落としている子ども

たちを救えるかもしれません。水を大切にすることには価値があると思います。

生活に欠かせない水を大切にしていきたいし、この先ずっと続く未来に向けて、守っていきたいと思いました。水を守ることは、世界をよりよくする「カギ」となってくるのではないかと感じました。

第 46 回「全日本中学生水の作文コンクール」
神奈川県優秀作文集

発　　行　：令和６年７月
発　行　元　：神奈川県政策局政策部土地水資源対策課水政室
電話　(045)285-0049(直通)

神奈川県
政策局政策部土地水資源対策課水政室　水政グループ
横浜市中区日本大通１　〒231-8588　電話(045)285-0049（直通）